UPA

上田薬剤師会 発

薬剤師の ちょっと薬に立つお話

YAKUNI TATSU OHANASHI VOL.89

Vol.89

地域の皆さんの健康のために
さまざまな活動をしている
上田薬剤師会から、
健やかな毎日をつくるために
ちょっと役立つお話を
お届けしていきます。
毎月「第2土曜日」の
週刊うえだを、どうぞお楽しみに!

今月のTOPICS

お薬が飲みにくい方に

せっかく処方されたお薬も、用法・用量通りにしっかり服用できなければ、十分な効果が期待できません。飲みにくいお薬を服用しやすくする方法や、飲み忘れを防ぐ方法などを薬剤師の田村孝子さんに聞きました。

赤ちゃん・お子さまの場合

おくすりだんご

粉薬の場合、お水を1滴ずつたらして混ぜ、適度なペースト状にします。舌の上では苦みが出てしまうので、それを上あご、または内ほほに塗り付け、水で飲ませます。ミルクなど主食となるものや、子どもの好きなものに混ぜると、その味が嫌いになってしまう恐れがあるので、お水で。

チョコアイスと混ぜて

薬によっては、オレンジジュースやスポーツドリンクなど酸味のあるものと一緒に飲むと、苦みが余計に出てしまう場合があります。この場合、チョコレート味のアイスクリームに混ぜるとスムーズに飲んでもらえます。

服薬ゼリーと一緒に

市販の服薬ゼリーに混ぜると、つるっと楽にのどを通ります。スプーンに一口分のゼリーを取り、その中に薬を押し込んで、ゼリーごと飲み込みます。ゼリーの味もいろいろあるので楽しめます。

▲さまざまな種類がある服薬補助剤

高齢者の場合

高齢になると飲み込みがスムーズでなくなったり、むせ込んでしまったりということがでてきます。薬の飲みにくさが気になってきたら、かかりつけ薬剤師・薬局にご相談ください。薬を飲みやすくすることができるかもしれません。

錠剤を砕く

錠剤がなかなか飲み込めない場合、薬局で錠剤を粉砕してもらうことができます。しかし中には粉砕できないもの、粉砕したら効き目が変わってしまうものもあるので、よく確認してもらいましょう。

オブラートで包む

オブラートは水に溶けやすく、安全な食品です。粉薬の味を感じることなく、まとめて飲むことができます。薬を包んだら、スプーンにのせて水につけ、すぐに水と一緒に飲みます。

服薬ゼリーで飲む

服薬ゼリーは、薬が楽に飲み込めるやわらかさに調整してあるので、錠剤やカプセルを混ぜて、つるっと飲み込めます。粉薬や漢方薬も飲みやすくなります。

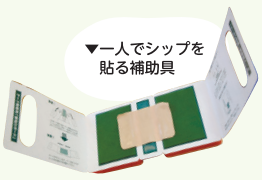
種類が多く飲み間違い、飲み忘れがある

錠剤をミキサーで粉砕して他の薬と混ぜ、分包し直すことができます。「おくすりカレンダー」の使用も飲み忘れ予防につながります。

▶錠剤を粉砕するミキサー

飲み薬以外にも

飲み薬以外でも、薬の使用を補助する用具があります。手の届きにくい部分に軟膏を塗る「まごの手」や、一人で背中などにシップが貼れる補助具なども。



▼一人でシップを貼る補助具

お薬のことは何でも
「かかりつけ薬剤師・薬局」にご相談ください!

特集 薬剤師を頼りにしてください! シリーズ その①

お薬の不安に寄り添います

服薬フォローアップ

薬剤師はお薬をお渡しする時だけでなく、
次回の通院時や来局までの間も、
患者さんを継続的に支援して、お薬の不安に寄り添います。

たとえば、こんな不安

副作用が心配
- ○注意が必要な薬の場合…抗腫瘍剤、糖尿病薬、精神病薬 など
- ○患者さんの状態によって…腎機能が低下している場合、高齢者 など

飲み忘れが心配
- ○認知機能が低下している場合
- ○たくさんの種類の薬を服用している場合

正しく服薬(使用)できるか心配
- ○飲み方、使い方が難しい薬の場合
  …骨粗しょう症治療薬、吸入薬、注射 など
- ○身体機能が低下している場合
  …うまく飲み込めない、吸入できない など

環境の変化が心配
- ○看護や介護の状況が変化した場合
- ○家族構成が変化した場合

こんなふうにフォローアップします

1 初回来局時

患者さんの情報を適切・的確にお聞きします。年齢や性別、体重といった基礎的情報に加え、既往症や合併症などの疾患や薬の服用歴、家族構成や就学・就業などの生活環境など、様々な情報をいただくことで、総合的に分析することができ、薬学的知見から評価につなげることができます。

2 次回来局までの間

①でいただいた情報や、服薬指導を通じて得られた情報を、薬学的知見に基づき分析、評価します。電話やFAX、SNSなど皆さんに合った連絡方法で、患者さんにその後の状況を聞いたり、薬の飲み方のアドバイスをしたり、場合によっては受診を勧めたり、医療機関へ情報提供をするなど、医療機関との連携も図りながらフォローします。

3 次回来局時

①や②の結果を確認し、分析・評価します。次回来局までのフォローアップ内容を再検討します。

①〜③を繰り返し、継続的に得られた情報を
分析・評価して、今後の薬物療法や薬学的管理指導に
適切に反映します

こんなケースがありました

事例1

80代女性。認知機能低下のため、ケアマネージャーからの依頼で精神科を受診。新たに認知症薬、安定剤、睡眠導入剤が処方されました。

- ○一回に飲む分をまとめて一包化し、お渡し。
- ○ご家族の意向もあり、定期的にお宅を訪問。服薬状況、患者さんの状態を確認。
- ○ふらつきなどの体調変化が認められたため、医師に情報提供。
- ○医師の指示により、処方内容が変更となりました。

事例2

80代独居男性。慢性便秘の訴えがあり、市販の便秘薬を販売。

- ○電話で服薬と排便の状況を確認。慢性便秘改善のため、食事などの生活習慣をアドバイスしました。

**薬剤師の専門的な視点で、治療の状況や副作用などを
確認させていただき、必要なアドバイスをしたり、
医師に情報を提供することで、より安心して薬を使用していただけます。**

**かかりつけ薬剤師・薬局を、
ぜひ頼りにしてください!**

◀上田薬剤師会「認定基準薬局」の目印、グリーンクロス看板

はい、お答えします! のコーナーは今月はお休みです

一般社団法人 上田薬剤師会 〒386-0016 長野県上田市国分994-1 事務局:TEL.0268-22-6130

HPでバックナンバーもご覧いただけます ▶ http://www.uedayaku.org/